

## 検討テーマ2：環境負荷の少ない国土・地域構造への転換 現時点での基本的な認識と主な論点

### 1. 本テーマに係る現時点での基本的な認識

- (1) 環境負荷の低減を考えるに当たっては、経済、産業、交通等様々な分野での取組を検討する必要があるが、本委員会では、国土計画上極めて重要な国土・地域の基本的な構造や土地利用の面を中心に検討するのではないか。
- (2) 環境負荷の少ない国土・地域構造として目指すべきイメージとしては、21世紀の国土のグランドデザインにある次のイメージを基本的には現時点でも変更する必要はないのではないか。

太平洋ベルト地帯以外：小規模でまとまりのよい都市が効率的で環境負荷の少ない交通、情報通信基盤で結び付けられた都市のネットワークと美しい田園、森林、河川、沿岸等を通ずる自然のネットワークが重層的に共存する状況

太平洋ベルト地帯：残された自然の保全と周辺地域の劣化した自然の回復を図ることを通じて、より魅力的な空間として再生する

- (3) 環境負荷を低減するためには、自然界の物質循環や地域に賦存する資源やエネルギーの有効利用を図ることにより、物質の収支や循環性に十分配慮した国土・地域構造を考える必要があるのではないか。

また、そのためには全国計画とブロック計画をつなぐ指標が必要なのではないか。

## 2. 主な論点

### 論点1：環境負荷の低減に係る新たな課題と国土計画としてのポイント

環境負荷の低減に係る新たな課題としては、世界全体やアジア等近隣諸国との連携・協力等の強化があるが、この他に重要な問題・課題はあるか。

また、国土計画ではどういう観点からこれらの課題に取り組むべきか。

### 論点2：地域の取組方向の妥当性

前記1.(2)を具体的にイメージすると、以下のように考えられるが、この取組の方向は妥当であるか。

都市地域：今後、市街地のコンパクト化、すなわち土地利用の秩序ある集約化を図るとともに、ゆとりの生じた空間等において自然環境の再生を図ることが重要になるのではないか。

地方中小都市や農山漁村：都市と農山漁村が連携し、流域やバイオマス等に着目した物質循環型の地域づくりを図ることが重要になるのではないか。

### 論点3：物質循環の考え方 ～国土計画としてのポイント～

物質収支や循環性については、全国、ブロック、都道府県、市町村、流域圏等それぞれの圏域において、出来るだけ圏域内における資源の利用を高め、循環性を確保していくことを基本とすることによって、物質の収支バランスが調整された循環性の高い国土・地域の構造を構築できるのではないか。

また、圏域内だけでは対応が困難な場合には広域的な連携を図ることになるのではないか。

その際、地域内の循環だけでなく、地域外との物質の移出入に焦点を当てることが重要ではないかと考えるがどうか。

### 論点4：全国計画とブロック計画との橋渡し

新たな計画制度の下では、全国計画はブロック計画に対して方向性を与えることが期待されているが、本分野において、全国計画とブロック計画の間をつなぐものをどのように考えればいいのか。